



# 市民が主役のまちづくりを 布目ゆきお 市政直行便

## 2014年新春号 NO.35

【編集・発行】市民ネット  
長野市議会議員・布目裕喜雄

〒380-0961

長野市安茂里小市 1-4-10

自宅 ☎ 227-3537 FAX227-3897

メール: info@nunomeyukio.jp

## 「長野をガラッと元気に変える」 加藤新市長への期待と課題

昨年12月の市議会定例会、初めての議会に臨んだ加藤久雄市長は所信表明で「長野市を明るく元気に“ガラッ”と変えていく」と決意を表明しました。

その上で、子ども支援部の創設による子育て支援先進都市、大規模プロジェクトの検証、支所機能の強化・支所長権限の向上などを新たに打ち出しました。

11月の就任以来、中山間地域や大規模プロジェクト事業現場への視察・意見交換をはじめ、松本市や新幹線延伸を睨んでの北陸3県の県都への訪問、通勤バスの乗車体験など、“現場主義”でフットワーク軽く活動を始動させた点は、率直に評価したいと思います。“市民・市議会と風通しの良い”双方向の市政へ、現場主義で市民の声に根差した市政運営を貫いてほしいと願います。

### ◆「経営感覚で変える」を強調

加藤市長は、「企業の第一線で経験してきた経営感覚を最大限に生かす。行政の無駄な部分を省き、力を入れるべきところに集中する。経営資源を集中させる経営手法が生かせる」とし、「良いことは踏襲し、方向転換した方がいいものや変えるべきところがあればすぐに変えたい」と強調、「変えるには、市長が変わった、まさに今がチャンス。行動し、発信して結果を出す市役所にする」と抱負の一端を述べました。

「経営感覚を生かし、変える」を強調した点が印象的です。変える視点は「経営感覚」だけでなく、「市民感覚・現場感覚も忘れずに！」と念を押したいところです。

### ◆実効ある前例踏襲見直しへ

「前例踏襲を見直し、変えるべきは変える」を強調する市長ですが、「利用者負担・受益者負担の増大」の見直しには消極的と言わなければなりません。子ども福祉医療費の対象年齢拡大の先送りや新斎場利用料金の倍増など課題が残されています。「サービスと負担の適正化」について、「市民の厳しい暮らし向き」を十分に踏まえ、前例踏襲を改めてもらいたいものだと考えます。

### ◆「子育て先進都市」に期待

市長は、「子ども支援部を新設し、保護者が仕事と両立しながら安心して子育てができるようきめ細かな支援体制を整備し、子育て世代が全国から移



11月27日、市民ネットで加藤新市長に「新年度予算編成における重点政策・施策の提案書」を提出。

住んで来たくなるような子育て支援先進都市をめざす」としました。「国の制度を所与の政策」とする驚澤市政との違いを際立たせています。具体策はこれからですが、期待大です。

私が委員を務める市議会の「子育て・子育て対策特別委員会」の本領が問われることとなります。先進都市の事例に学びながら「子育て・子育て先進都市」をともに目指したいと考えます。

### ◆幸せ実感できる変革へ

総論として「変える」には大賛成ですが、問題は「変え様」にあります。福祉や教育、雇用を重点に、市民の皆さんが幸せを実感できる変化・変革を追求し、市民本位で市政改革に取り組む所存です。

# 12月議会 論点・焦点

## 新斎場・火葬料金15,000円に反対 「継続審査」の動議を提出

12月市議会は、豪雨災害の復旧費や南長野運動公園総合球技場整備事業費等を追加する総額5億6,700万円余の一般会計補正予算案や新斎場の利用料金などを定める条例改正案、市立長沼公民館の運営管理を住民自治協議会に委ねる指定管理者の指定議案などに加え、最終日に提案された教育委員などの人事案件など40件の議案を原案通り、可決・同意し閉会しました。

最終日は、付託議案を審査した各委員長報告に対し、13人が賛否の討論に立つ異例の展開で、午後6時までかかりました。

論点の一つが、建設が進む新斎場の利用料金です。【下図は松代新斎場のイメージと平面図】

### ■現行8,000円から約2倍の料金に

大峰斎場は今年10月、松代斎場は来年3月にオープンします。この新斎場の利用料金、すなわち火葬料金(12歳以上の大人)を、現行8,000円から15,000円に引き上げる条例改正案が賛成多数で可決されました。

私は、「市民に新たな負担をお願いする議案にもかかわらず、十分な審議が尽くされていない」ことから、反対討論を行った上で、「継続審査」の動議を提出しました。動議は成立したものの、継続審査は賛成少数で否決となってしまいました。

### ■合理性なき「管理運営費50%基準」

新料金の算定は、施設改修費を含めた「管理運営費の50%」を基準としています。行革審議会が定めた「行政サービスの利用者の負担に関する基準」によるものです。

この基準は、行政として「義務的か裁量的か」という物差しと「公益的か私益的か」の物差しを組み合わせ合わせたものですが、市内に民間火葬場はなく行政が義務的に行っており、極めて公益性の高い仕事となっています。なぜ、火葬料金は管理運営費の0%や25%とならないのか、説得力ある説明はされていません。まさに「基準ありき」なのです。

### ■中核市・9市で火葬料金無料

火葬料金は、長野市と同規模の中核市で21%にあたる9市が無料で実施、1万円以下は57%の24市に上ります。またH16年以降に建設された34市の斎場のうち、6市が無料となっているのです。「無料」という政策的配慮を行っている自治体の動向にもっと問題意識を持った検討がされるべきです。

### ■道理なき中核市平均値

市側は、42中核市平均で待合室料を含めて13,094円、新設の34斎場平均では12,614円で、「他市と比べて際立って高い水準ではない」としますが、これらの平均値には「無料実施・ゼロの斎場料金」がカウントされていません。学校のテストでゼロ点を除いて平均点を算出するようなもので、全く道理がありません。



無料を含むと中核市では8,384円、新斎場平均では12,255円と算出されます。「15,000円の利用料金は高くない」とする根拠は崩れているといわなければなりません。

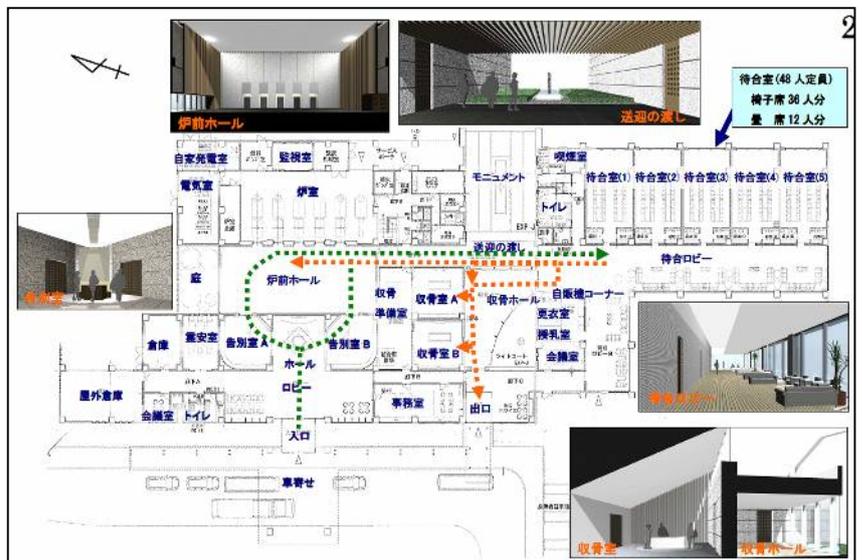
### ■料金引き上げは抑制的であるべき

この議案を審査した福祉環境委員会で市側は「一生に一度の利用であり、国保の葬儀料5万円の枠内に収まることから市民の理解が得られると思う」と答弁しました。確かに、新斎場は個室対応となり最後の時を静かに見送る施設として利便性や静寂性は格段に向上します。しかし、人生最後の時だけに、一生に一度のことだからこそ、利用料金の引上げには抑制的であるべきだと考えます。

### ■1万円の料金で2,200万の経費増

新斎場は年間4,400人の利用を見込んでいます。例えば新料金を2,000円引き上げ1万円にした場合、新たな経費増は2,200万と試算されます。2,200万円の経費層は裁量の範囲でしょう。市民に温かい、冷たいかの選択の問題だと考えます。

皆様のご意見をお寄せください。



**市民みんなで考えたい  
公共施設白書  
1兆円の波紋**

**今後40年間の施設/道路/橋梁  
の改修更新に1兆円超！！  
…毎年269億円必要と試算…**

昨年10月に「公共施設白書」が公表されました。1年がかりで策定に漕ぎ着けたもので、「箱もの」である施設をはじめ、道路や橋梁・上下水道管などインフラを含めた公共施設の全体像をとらえ、公共施設が置かれている現状と課題を市民と情報共有することを目的としています。

今後、試算された施設更新費用などのデータを基礎資料として、公共施設の将来のあるべき姿を検討し、「量」(施設の統廃合・複合化、再配置計画の策定)と「質」(施設の長寿命化・効率化と民間活力の導入)の見直しに向けて取り組むとしています。【図は広報ながの12月号より・施設のみの改修更新費の推移】

**■深刻な施設の老朽化**

中央道・笹子トンネルの崩落事故に象徴されるように、公共施設の老朽化・劣化という深刻な問題に直面しています。自治体も同じです。これから大規模施設への新規建設投資が本格化する長野市にとっては、市特有の五輪施設の保有・維持に加え、広大な中山間地域における施設サービスの維持はより深刻な問題であると同時に、公共施設の見直しは避けて通れない課題となっています。

**■30万都市…人口減少を想定**

白書では、2040年の長野市人口を30.2万人、高齢化率38%を想定します。26年後の姿です。本格的な人口減少時代における市民サービスのあり方が問われることとなります。

**■1兆370億円の改修・更新費**

今ある施設をそのまま維持することを考えた場合、建物や道路・橋梁などを含めて、今後40年間に必要な改修・維持経費は、何と1兆730億円に。毎年269億円必要とされます。

建物だけで考えても、40年間に5,858億円、年間146.5億円に。ここ5年間の平均では83.1億円で1.76倍に跳ね上がります。【下図参照】

**■「施設そのまま維持は困難」**

白書では「すべての公共施設を将来にわたり維

持していくために、試算された経費を確保し続けていくことは極めて難しい」とし「公共施設の見直しが必要」と結論付けています。

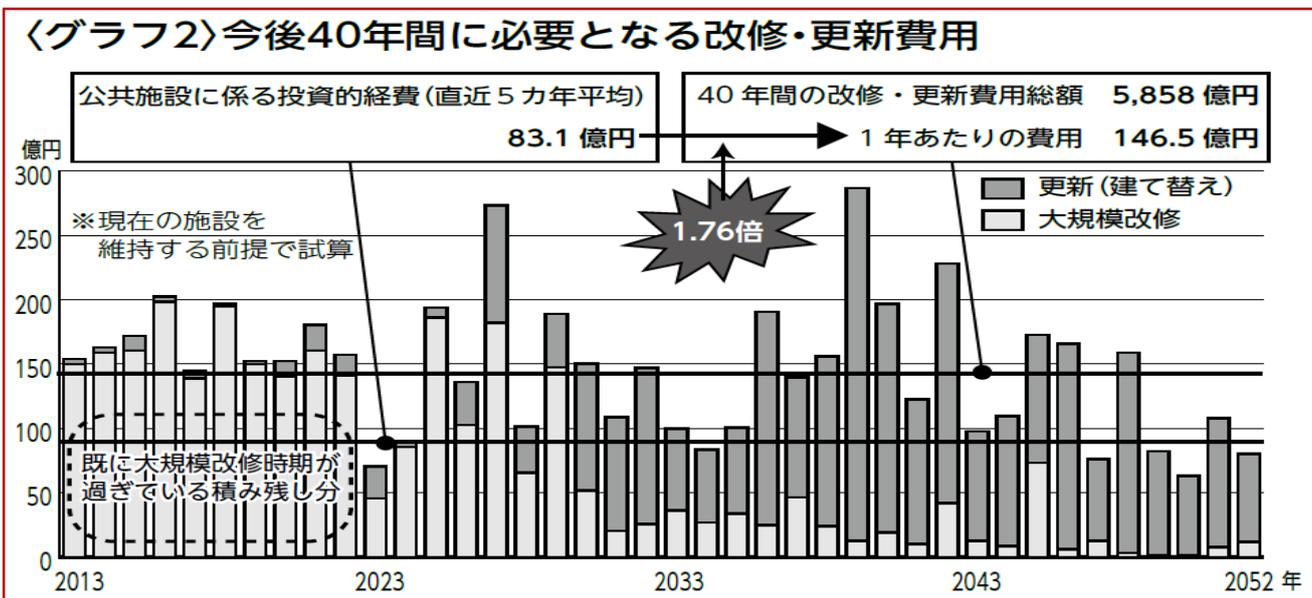
そして、公共施設見直しの基本的な考え方として「量の見直し⇒公共施設の再編・再配置」「質の見直し⇒公共施設の長寿命化」「利用者負担の見直し」をあげています。

**■「市民とともに考え、つくる」を  
基本に検討深めたい**

私は、これまで、公共施設の見直しが市民生活に直結することから、市民とともにつくる公共施設白書、市民とともにつくる公共施設見直し計画を求めてきました。維持費に毎年約5億円投入する五輪施設に加え、広範な中山間地域を抱える長野市にとって、公共施設の維持管理は行財政運営の最重要課題に浮上することは必至だからです。

さらに、将来的な公共施設の改修維持経費を見据え、「公共施設維持管理基金」を創設すること、行政内に公共施設をマネジメントする総合部局を編成することなども提案してきました。

今後、「総論賛成・各論反対」となるような厳しい状況も想定されますが、採算性・効率性だけでなく、市民にとっての必要度・満足度に照らし、市民参画で「市民とともに考え、つくる」を基本に据え、冷静に検討・検証を深めていきたいと考えます。



## 「知る権利」奪う特定秘密保護法の廃止を求め討論

長野地区憲法擁護連合が提出した「特定秘密保護法に反対する請願」は、紹介議員となり採択に力を尽くしましたが、総務委員会では賛成少数で不採択に。本会議において、国民の知る権利を侵害し、もの言えぬ情報統制社会へと向かう特定秘密保護法の危険な本質に対し、市議会が人権感覚を研ぎ澄まし良識をもって対応することを心から願って、総務委員長報告に対す

る反対討論を行いました。

また、加藤市長の「秘密保護法に問題はない」とする姿勢にも、「市民感覚とかけ離れている」強く苦言を呈しました。

憲法が禁止する集団的自衛権の行使を解釈で容認しようとする動きを食い止め、秘密保護法を廃止に追い込むため、さらに世論を盛り上げていきたいと思ひます。

## 動き出す市長直轄プロジェクト…屋上屋が懸念

加藤新市長が公約していた「市長直轄プロジェクト」は、「中山間地域活性化」と「新幹線延伸・善光寺御開帳対策」の2つのテーマで設置され動き出しています。迅速な課題解決と着実な成果を上げることが目的としています。即効性のある施策展開という点で期待はするものの、「やまざと振興計画」やシティ・プロモーション

実行委員会など既存の計画や組織に対し、屋上屋となりかねないことが懸念されます。市長の意欲は評価しますが、重要なことは、「公約だから」と形を整えることよりも、「中身でしよう」と言いたくなるのですが…。また、これまでの副市長プロジェクトの今後のあり方を含め、チェックが必要です。

## 労務単価引上げ等により事業費嵩む大規模プロジェクト

労務単価の引き上げや資材費の高騰から、新庁舎・市民会館の建設事業費は151億円から153.5億円に。また、南長野運動公園総合球技場の整備事業費は71.4億円から79.7億円に膨らみました。外的要因によるもので

やむを得ないと考えますが、労務単価の引き上げが下請け・孫請けの労働者の賃金に確実に反映されなければ意味がありません。震災復興の本格化に伴う労働者不足も深刻です。公共工事の品質確保と合わせ、監視が必要です。

## 活動あれこれ

■マレットゴルフ交流会…昨年夏の話ですが、7月27日、安茂里後援会（塚田武司会長＝小市）と交流会実行委員会（高野和頼委員長＝犀北）の主催による「布目市議を囲むマレットゴルフ交流会」を犀川第一グラウンドで催していただき、楽しい時間を過ごしました。参院選の疲れが吹き飛んだ一日でした。【写真下は大表表彰式後の記念写真】

### ■安茂里で土木現地調査…

10月、安茂里地区の現地調査に同行。区役員を先頭に市建設部の担当課と一緒に、道路や水路の改修、通学路の安全確保など、安全・安心なまちづくりに向け、現地を確認しながら対応策を検討。住民要望の実現に取り組みます。

【写真右は平柴台と小柴見の境

### ■バス運転手から見た危険

道路を調査…11月、アルピコ交通や長電バスの路線となつて



いる市内の国・県道、市道について、県建設事務所や市建設部の皆さんと一緒に、バス運転手から見た危険箇所を路線バスに乗って調査。労働組合が取り組むもので、道路の凹凸の改修や信号改良、停止線の変更などを要望。バス利用者の安全確保、公共交通利用促進に向けて引き続き頑張ります。

### ■市議会・所属委員会…

昨年9月から総務委員会、議会運営委員会、子育て・子育て対策特別委員会の委員に。また長野広域連合議会の議員も務めています。



**編集後記** ◆特定秘密保護法、集団的自衛権の行使容認、原発再稼働…案じられる、この国の先行き◆「ガラッと変える」を唱え登板した新市長、幸せが実感できる市政の変わりように期待◆借金による大規模プロジェクトが市民生活にしわ寄せされないよう「鹿を指して馬と為す」(史記)が如く、理屈に合わない道理がまかり通らないように厳しくチェック◆暮らしに笑顔と希望を。市民が主役のまちづくり、安心・安全が心に響く温かい市政をめざし、「人間万時塞翁が馬」のゆったりとした心持ちを忘れず、心身全開で取り組む所存◆今年の年賀状に記したことです。本年もよろしくお願ひいたします◆猛威を振るうノロウィルスやインフルエンザ、予防に努めご自愛を◆市議活動10年の節目を経て、決意新た。3月市議会では質問に立ちます。ご意見・ご要望を。(布)